

## 腹部エコー検査とは

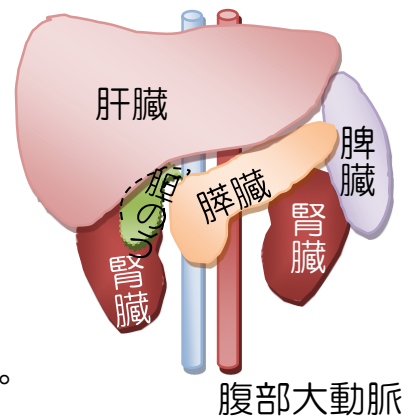
腹部皮膚表面に超音波（エコー）を発信する装置（プローブ）をあて、内臓からの音波のはね返りを画像にしてモニターに写し出します。きれいな画像を得るために、プローブと皮膚表面の間にゼリーを塗り空気の間隙が出来ないようにします。

- 検査時間は、10～15分ほどです。
- 観察しやすくする為に呼吸を調節（吸ったり、止めたり）して頂いたり、寝る向きを変えたりして頂きます。



## 腹部エコー検査でわかること

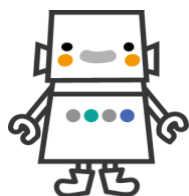
- 肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、脾臓、腹部大動脈に異常がないかを調べます。
- 各臓器の腫瘍性病変をはじめ、結石、脂肪肝等の生活習慣病と関連が強い変化も発見できます。



## 検査のメリット・デメリット

**メリット** : 痛みがなく放射線被ばくも無いので安全に簡便に行えます。

**デメリット** : 骨や消化管ガスなど超音波が伝わりにくい部分があるため、腹部全域を観察できないことがあります。体格が肥満型の方も超音波が伝わりづらく良質な画像が得にくいです。また手術後の腹部も観察しづらいことがあります。



腹部エコー検査の結果で「異常」が見つかった場合、  
どうしたらよいですか？

エコー検査では病変の有無は確認できますが、良性か悪性かの鑑別が難しいことも多く、D2（要精密検査）判定の病変が確認された場合は、医療機関にてCTやMRI等で確認する必要があります。



## ・当センターの腹部エコー検査D2判定(要精密検査)所見

主な所見	所見の解説
肝血管腫	肝臓によく見られる良性腫瘍です。血管の塊のようなものですが、初回で発見された場合や経過観察中に変化がみられるときは精密検査が必要な場合があります。
肝腫瘍 (血管腫以外)	肝臓の腫瘍には良性から悪性まで様々な腫瘍があります。良性か悪性かの鑑別のため、精密検査を受けてください。
胆のうポリープ 10mm以上	胆のうの粘膜が隆起した状態で、ほとんどの場合は心配ありませんが、10mm以上の場合は悪性腫瘍との鑑別が必要なため、手術を前提とした精密検査が必要です。
胆のう壁肥厚	胆のうの壁が厚くなっている状態です。原因を確認するために精密検査が必要です。
脾のう胞	液体の入った袋状の病変です。単純性のう胞は心配ないですが、腫瘍性のものは良性か悪性かを鑑別するため精密検査が必要です。また良性でも悪性化するものがあり、定期的な経過観察が必要です。
腎血管筋 脂肪腫	腎臓の代表的な良性腫瘍ですが、初回で発見された場合や経過観察中に変化がみられるときは精密検査が必要な場合があります。
腎腫瘍	腎臓の腫瘍には良性から悪性まで様々な腫瘍があります。良性か悪性かの鑑別のため、精密検査を受けてください。

\*当健診センターでは、検査結果でD2判定項目がある方には、  
宛先未記入の「精密検査依頼状」を健診結果とともにお送りしています。  
早期発見・早期治療にぜひお役立てください。



・精密検査の結果で良性の診断が確定した場合でも、精査先の主治医の指示に従って経過観察は必要です。

当センターには、保健指導担当の保健師、管理栄養士がいます。  
健診の際は、お気軽にご相談ください。